



SPECIAL FEATURE

第12回
信州安曇野ハーフマラソン

また来たい。ランナーを迎える安曇野流おもてなしの一日



第12回信州安曇野ハーフマラソン（実行委員会主催、市・信濃毎日新聞社共催）が6月7日、豊科南部総合公園・ANCアリーナを発着点に開かれました。当日は水無月の爽やかな空気のなか、6197人（ハーフの部5460人・ファミリーの部737人）のランナーが、午前8時30分の号砲とともにスタートしました。

本大会は、ファミリーの部がエントリー開始からわずか26分、ハーフの部も過去最速となる3日で定員に達するなど、全国のランナーから高い人気を集めています。その理由は、北アルプスを望む美しい景色の中を走るコースだけではありません。

大会当日は、700人を超えるボランティアがランナーを支え、沿道には多くの市民が駆けつけました。「頑張つて！」と声をかける子どもたち、笑顔で給水や完走賞を手渡すボランティア、ゴール後に振る舞われる手作りのおにぎり……。会場には、走る人を「まち全体で迎える」安曇野ならではの「おもてなしの姿」が広がっていました。

「また来年も参加したい」。そんな声が数多く寄せられるこの大会は、前日の安曇野スポーツフェスティバルも含め、多くの人のチカラで支えられ、作られています。今号では、信州安曇野ハーフマラソンの魅力に迫ります。

数字で見る信州安曇野ハーフマラソン

| | | | |
|---|---------------|---|---------------------|
|  | 出走者数 6197人 |  | ボランティア 約700人 |
|  | 県外参加率 40% |  | 沿道応援団体 13組 約200人 |
|  | おにぎり 6300個 | | 沿道で応援した人 たくさん |

12回連続で故郷の大会に参加している橋本さん。今大会も笑顔で爽快ランを楽しみ完走を果たしました。橋本さんに大会の魅力を聞きました。

以前から仲間と一緒に1泊で行ける各地のハーフマラソンに参加していました。第1回大会が始まることを母から聞き、「仲間に地元の良いところを伝えるチャンス」と迷わず参加したことがきっかけです。それから10回大会まで仲間と参加し、11回大会と今回は1人で参加しました。今では大会の日が年に1

回の帰省のタイミングになっています。仲間と参加していた頃は、大会とあわせて観光をしたり、前夜に家族とジンギスカンを囲むことが恒例でした。そして何より、北アルプスを眺めながら走るのを毎年楽しみにしていました。

信州安曇野ハーフマラソンは、全てが爽快な雰囲気。水や空気の心地よさはもちろん、多くのボランティアや沿道の応援がランナーを後押ししています。こんなに多くの人が沿道でポジティブに声援を送ってくれる大会は他にありません。

今回は準備不足もあり、完走できず不安を抱えてスタートしました。それでも義理の妹が作ってくれたおにぎりを力に、安曇野の爽やかな風と途切れることのない沿道の声援を受けながら、最後まで走り切ることができました。レース中は走り終わるのが残念に感じられるくらい安曇野の皆さんが温かいんです。みんな安曇野が大好きで、「来てくれたランナーに喜んでほしい」という思いがあふれている。そんな故郷を誇らしく思います。また、来年も再来年も参加し続けていきたいです。



INTERVIEW
橋本千恵さん（50・京都市）

ポジティブな「おもてなし」はこの大会の魅力